

知事記者会見（平成23年8月29日）

●知事発表

（１）県産農畜産物等の放射性物質検査について

（２）総合診療・家庭医研修センター（仮称）の開設について

●幹事社質問

（１）民主党の代表選挙の結果について

（２）9月補正予算（案）について

時間：15：00～15：29

場所：プレゼン室

（幹事社）

最初に知事から発表事項があるということですので、よろしくお願いいたします。

（知 事）

県産農畜産物等の放射性物質の検査と、総合診療・家庭医研修センターの開設の2点について皆さんにご報告申し上げます。

県産農畜産物の放射性物質検査についてですが、福島第一原発の事故以降、本県の空中放射線の量は平常の範囲内であり、本県は基本的には安全な地域と考えております。

しかし、県外から持ち込まれた稲わらにより、県産牛肉でも一部汚染が確認されたため、7月26日から県独自に農産物の安全確認のため、放射性物質検査を行っております。

これまでの検査結果を簡単に申し上げますと、農産物等については、いずれも放射性物質が不検出であり、肉用牛についても8月2日以降にと畜した全てが暫定規制値以下となっております。

8月4日、国の原子力災害対策本部において、農産物等の放射性物質の検査結果が見直され、検査対象自治体の一つに本県も含まれることになりました。県ではJAや検査機関等と調整の上、改めて検査計画を策定しております。対象品目につきましても、県独自検査計画の15品目に水産物等を加え、20品目としております。本県農業の主力でございます米については、収穫前に3カ所で安全確認検査を行い、収穫後の本調査として旧市町村単位に69カ所からサンプリングを行い検査します。既に行っている肉用牛の全頭検査、農協等が行う自主検査との3つの柱で県産農畜産物等の安全確認に万全を期してまいりたいと考えております。

この計画の詳細については、私の会見終了後、農林水産部が合同取材を受け、ご質問等にお答えしたいと思います。

次に、総合診療・家庭医研修センター（仮称）の開設についてであります。

県においては、厚生連と連携して総合診療・家庭医養成プログラムの推進に取り組んでおりますが、研修の拠点となる総合診療・家庭医研修センターのセンター長に秋田組合総合病院副院長の齊藤崇氏が内定し、来年4月に秋田組合総合病院の敷地内に研修センターを開設することとなりました。このため、研修センターの施設・設備を整備するための経費の一部を9月補正予算に計上する予定です。

この研修プログラムの目的は、近年ニーズが高まっている複数の疾患を診ることが出来る病院勤務の総合医を養成するものであり、秋田組合総合病院と湖東総合病院とを研修施設とすることにしております。

病院勤務の総合医を養成することは、内科各科の専門医不足の解消が図られるほか、患者さんにおいても複数の診療科を受診する必要性が少なくなりますので、この事業の効果が期待されます。来年4月の研修開始に向け、研修医の募集やプログラムの学会認定手続などを進めてまいります。

この事業のプログラム推進の中心となるセンター長が内定したことに伴い、厚生連においては、湖東総合病院の改築に向けて、実施設計の準備作業に着手することとなりました。この総合診療・家庭医研修センターは、今後こういう分野のお医者さんにも必要になるということと、当面は湖東病院を研修施設として選択し、湖東病院の医師確保の一助とするということにもなるわけでございます。

私からは以上です。

（幹事社）

知事の発表事項について質問があれば各社どうぞ。

（記 者）

2点目の総合診療・家庭医研修センターについて、指導医として秋田組合総合病院の副院長の齊藤崇さんを選ばれたということですが、この先生はどういった観点で指導医として選ばれたのでしょうか。

（知 事）

基本的には、指導する能力があるかどうかということであります。

秋田大学の医学部のご卒業で、秋田大学医学部の臨床教授もやっており、秋田の土地柄、状況についても十分熟知していらっしゃる。

もう一つは、湖東総合病院も厚生連の傘下であり、秋田総合組合病院にこのセンターを設けることにより、研修医の派遣がスムーズに行えるということでもあります。副院長をやりながらの指導ですので、御本人の意向が大変重要でありました。何人かの方に当たった結果、この方がお引受けしていただけるということでした。厚生連としても厚生連病院の傘下の副院長さんでありますので、厚生連病院全体の医師の充足にはプラスになるという事でお引受けをしていただいたということでもあります。

(記 者)

何人かの方に当たられたというようなお話がありましたけれども、研修医として、この医師不足の解消の一助にという期待もあるわけですね。外部から先生を招くというような（ことは、検討しなかったのでしょうか）。

(知 事)

厚生連の中にもいらっしゃり、秋田大学との関係もございますので、我々としては一番理想的な形ということで齊藤先生にお願いしました。

(記 者)

年間5人という研修医だったと思うんですが、これは半永久的にずっと研修をお続けになって医師の確保をしていくのか、その辺の見通しはいかがでしょうか。

(知 事)

医師確保については、いわゆる地域枠による医学部生も、今大分入学してきていますが、この方々が一人前になるまでにしばらくかかります。

また、全体的に他の病院についても医師不足の傾向にある。特に過疎地においては、すべて専門医という形ではなく、総合医のニーズも高まっておりますので、当面はこの形で走らせるつもりです。

また、専門医の招致という医師確保対策も続けていき、ある程度目途が立ちますと、湖東病院のスタートができるという見込みであります。最近では、この分野の希望者も大分増えており、まずはスタートして、湖東病院を研修病院にする。その中で、次の策を更に広げていこうと思っています。まずはスタートさせるということです。

(幹事社)

ほかありませんか。

(記 者)

放射能関連で1点だけお伺いしたいんですが、県の安全性の公表のあり方ですけれども、農畜産物に関連して牛以外は不検出という明解な公表の仕方をされていますが、県産牛に関しては、簡易検査の分は致し方ないんですけれども、自粛牛で詳細検査をしていても数値の公表はしないというやり方をしています。今後、米の検査が進んでいきますが、一貫性のないこの公表のあり方について、いかがなものかという声も聞かれますが、県としてはどのようなスタンスで安全性を公表していこうというお考えなのか教えてもらえますか。

(知 事)

専門的、技術的なことが絡むでしょうから、次の農林水産部からの合同取材において質問していただきたいのですが、いろいろな要素があり、その対象によっていろいろな調べ方もあると思います。後で詳しく聞いてください。

(幹事社)

では幹事社質問に入らせていただきます。

民主党の代表選挙、野田財務相が新しい代表に選ばれました。先週の会見で、知事一個人としては前原前外相あたりがいいのではないかという御発言もありましたが、今回の結果を踏まえてどういうふうに受け止められているのか、また新内閣に何を望むかということがまず第1点。

第2点目が、9月補正予算についてですが、今回予算配分で何に重点を置いたのか、9月補正のポイント等についてお伺いできませんでしょうか。

(知 事)

民主党の代表選で野田財務相が最終決選投票で選ばれ、総理大臣になるものであらうと思います。3位以下の前原さん、鹿野さん、馬淵さんの票のかなりの部分が野田さんについており、海江田さんに小沢さんが大分肩入れしていることから、小沢さん系と、そうではないところのせめぎ合いという構図の中で誕生したわけであります。

野田さんについては、非常に実直で真面目な、オーソドックスなやり方の総理でありますので、あまり極端にはらはらせられることはないと思います。

懸念するのは、自民党との大連立を強く前に言っていたということと、官僚と上手くやるということは政治主導の姿をどう見せるのかということに課題があると思います。考え方は前原さんとも通じているようなので、民主党としてはある程度いい選択をしたのではないかと思います。

問題は、この後、政策実現の際にどういう形になるのかということです。お一人だけ増税論者にとらえられていますが、実際に税の問題を扱うとすると、民主党内でどのぐらい一致団結してこれを支えるのか。自民党との大連立を少し喋りすぎ、自民党から相当きつい要求・要望が出されるのではないかと思います。自民党に妥協し過ぎますと、今度は民主党の内部で軋轢が生ずる。その軋轢というのは、小沢さんの考えとの軋轢ということにもなるわけであり、依然としてやや不安定さの中で政治が行われるのではないかと思います。

この大震災からの復興、国際的な情勢、国際経済上の問題等々、現在進行形で大問題が起きておりますので、まずは腹の座ったやり方で、民主党内をまとめていただきたい。少し財務省寄りだという批判もありますが、野田さんも総理になられますと、今度は全体を見渡す立場であるので、財務省寄りということにはならないと思います。みんなで支えて、この後の三次補正、当初予算について、きちっとやっていただきたいと思ってます。まずは民主党がまとまることです。来年度の当初予算というのは、ものすごく大事だと思います。できるだけスピーディーにやっていかなければならないと思います。全くまとまらないということになると、そもそも民主党というのは政党なのかどうかという、その存在が問われるのではないかと思います。

2番目の9月補正予算ですが、今回の9月補正は40億円台です。

一つは肉用牛の緊急の経営支援関係が8,000万円程度。放射線の測定検査体制のた

めに機械を買ったり、モニタリングポストを増やしたりということで、これが約9,000万円ぐらいあります。47都道府県の知事会が中心になって作っている被災者生活再建支援基金の補てんが9億円ぐらい。6月の県内の河川の氾濫に対する緊急の災害復旧的なものが約7億弱円です。25年のディスティネーションキャンペーンの準備が4,5千万円あります。韓国へのウインタースポーツの売り込み、東アジアからのチャーター便関係の助成等のほか、医療再生で北秋田市立の米沢診療所の整備に対し2億4,000万円ほどの補助。そのほか国の三次医療に対する基金が約15億円など、必要なものについて、補正予算を組むということです。

湖東病院も厚生連の方でスタートするわけですが、(総合医療・家庭医の)研修センターに対する補助も若干あります。

補正の方は、まだ見直しもありまして、最終的にはもう一回調整に入りますので、少し違ってくる場合もありますけれども、そう違わないと思います。

(記者)

野田新代表、明日にも新総理になられる方に、秋田県としては、これからこういった政治を行ってほしいと、どういうものの実現を緊急的に行ってほしいという、知事のお考えはいかがでしょうか。

(知事)

地域主権という、民主党が地方を大事にするという党のマニフェストであります。これは自民党との間で白紙になったものではございません。できる限り、地方の意見に十分に目配りしながらやっていただきたいということがまず一つであります。

もう一つは、やはり選ばれたからには自分の思うところについて、極端な妥協をせずにやっていただきたい。財政再建の問題は、増税やサービスのカットということで、逃げざるを得ない場合もありますが、討ち死にしても形が作られれば評価されます。ここは変に妥協せずにやっていただかなければならない。

国際的な外交は一人ではやりきれませんので、実力ある大臣を配置して、それぞれ分担制でやっていくしか今は乗り切れないでしょう。御自分の力だけではとても無理ですから、民主党のみならず広く民間も含めて人材を登用した方がいいのではないかと思います。

(記者)

先程の9月補正ですが、今回、震災関連では一つの柱として打ち出したものでしょうか。どれくらいの額になったものでしょうか。

(知事)

震災関係だと、肉用牛の緊急支援が8,000万円ほど、放射能の調査体制に約9,000万円、災害支援基金の積立に9億円、ここら辺が大きいところですが、11億円弱ぐらいです。

(記 者)

やっぱり今回も震災関連が一つの柱にはなっていますか。

(知 事)

震災関連と医療です。三次医療の15億円の基金の積み増しと、北秋田市の米沢診療所の整備に2億4,000万円ほど。地域医療の再生事業、これは総合診療・家庭医研修センターに約800万円ほど計上するという事で、湖東病院にある程度目途がつき、北秋田についても課題が一定の方向に向かったということが大きいと思います。

(幹事社)

ほかございませんか。では、なければ終了します。ありがとうございました。